

# 横浜楽友会

## SQSサルビアホール・クアルテット・シリーズ シーズン 57

### QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2024 Salvia-hall Quartet Series Season57



#### ダネル弦楽四重奏団

- マルク・ダネル (ヴァイオリン)
- ジル・ミレ (ヴァイオリン)
- ヴラッド・ボグダナス (ヴィオラ)
- ヨヴァン・マルコヴィッチ (チェロ)

**2024年6月11日(火) 18:30 開場 19:00 開演**

横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール

- 【主催】横浜楽友会
- 【共催】横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール
- 【協力】日本音楽財団(日本財団支援事業)
- 【助成】公益財団法人日本室内楽振興財団

## Program

プロコフィエフ：弦楽四重奏曲第1番 短調 Op.50

Sergey Prokofiev : String Quartet No.1 in B Minor, Op.50

I . Allegro

II . Andante molto

III . Andante

シューベルト：弦楽四重奏曲第13番 短調 Op.29, No.1 D.804「ロザムンデ」

Franz Schubert : String Quartet No.13 in A Minor, Op.29, No.1, D.804 "Rosamunde"

I . Allegro ma non troppo

II . Andante

III . Menuetto - Trio: Allegretto

IV . Allegro moderato

休憩  
Intermission

シューベルト：弦楽四重奏曲第12番 短調 D.703「四重奏断章」

String Quartet No.12 in C Minor, D.703, "Quartettsatz"

プロコフィエフ：弦楽四重奏曲第2番 長調 Op.92「カバルダの主題による」

Sergey Prokofiev : String Quartet No.2 in F Major, Op.92

I . Allegro sostenuto

II . Adagio

III . Allegro

# QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2024

Salvia-hall Quartet Series Season57

## ヴォーチェ弦楽四重奏団

QUATUOR VOCE

2024年6月13日(木) 18:30開場 19:00開演  
横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール

【主催】横浜楽友会

【共催】横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール

【協力】日本音楽財団(日本財団支援事業)

【助成】公益財団法人日本室内楽振興財団

## Program

### モーツァルト：弦楽四重奏曲 第18番 イ長調 K.464

*Wolfgang Amadeus Mozart : String Quartet No.18 in A Major, K.464*

- I. *Allegro*
- II. *Menuetto*
- III. *Andante*
- IV. *Allegro*

### バルトーク：弦楽四重奏曲 第6番 Sz.114

*Béla Bartók : String Quartet No.6, Sz.114*

- I. *Mesto - Più mosso, pesante - Vivace*
- II. *Mesto - Marcia*
- III. *Mesto - Burletta: Moderato*
- IV. *Mesto*

\*\*\*

### ラヴェル：弦楽四重奏曲 へ長調

*Maurice Ravel : String Quartet in F Major*

- I. *Allegro moderato, très doux*
- II. *Assez vif, très rythmé*
- III. *FTrès lent*
- IV. *Vif et agité*

## Notes

### モーツァルト:弦楽四重奏曲 第18番 イ長調 K.464

モーツァルト(1756-1791)が作曲した23曲の弦楽四重奏曲の中でも、この第18番は「ハイドン・セット」と呼ばれるハイドンに捧げられた全6曲の中の5曲目で、かつ最大規模の作品となっている。1785年にウィーンで完成、出版された。第1楽章は透明で柔らかな雰囲気ソナタ形式。第2楽章はカノン風につづられるメヌエット。第3楽章は主題と6つの変奏からなる。第4楽章はソナタ形式を取るフィナーレで軽やかに締めくくる。演奏する楽譜の版やCDによっては、第4楽章にアレグロ・ノン・トロポと表記されているものもある。

### バルトーク:弦楽四重奏曲 第6番 Sz.114

バルトーク(1881-1945)はハンガリー最大の作曲家で民族的語法による現代的手法の開拓者として、20世紀音楽に絶大な影響を残している。ハンガリーの民謡だけでなく、ルーマニアや、バルカン半島、中近東などの音楽を分析し作曲に取り入れた。この第6番はバルトーク最後の弦楽四重奏曲で、どの楽章も「Mesto」(悲しげに)と記された共通の主題で開始されることで、作品全体の統一が図られているだけでなく、作曲した1939年当時の社会の雰囲気を象徴している、と言われる。

### ラヴェル:弦楽四重奏曲 ヘ長調

ラヴェル(1875-1937)はパリ音楽院で学び、ドビュッシーの影響を受け共に印象派音楽を大成した。ドビュッシーと比べ、より理知的で古典的な明快さをもつ。この時代は弦楽四重奏曲自体があまり多く書かれなかったせいか、この曲はラヴェル唯一の弦楽四重奏となったがかなりの傑作で、ドビュッシーにも絶賛された。ラヴェルらしいハーモニーの上に乗った美しいメロディの第1楽章第一主題が、第3楽章、第4楽章にもさまざまな形で現れることで、作品の自然な統一感をもたらしている。

## ヴォーチェ弦楽四重奏団 Quatuor Voce

サラ・ダイヤン (ヴァイオリン)  
セシル・ルーバン (ヴァイオリン)  
ギヨーム・ベケール (ヴィオラ)  
アルチュール・ユエル (チェロ)

Sarah Dayan, violin  
Cécile Roubin, violin  
Guillaume Becker, viola  
Arthur Heuel, cello



© Ryodoh Kaneko

結成20周年を迎えたヴォーチェ弦楽四重奏団は、多岐に渡る世界のクラシック音楽シーンで常に好奇心旺盛で冒険的な存在として認知されてきた。ジュネーヴ、ボルドー等、数々の著名なコンクールで入賞。今井信子、ユーリ・バシュメット、ゲイリー・ホフマン、パブロ・マルケス等著名な音楽家と共演。また、実に多様な芸術家たちを取り込み、多くの革新的なプロジェクトに挑んできた。

フランスではフィルハーモニー・ド・パリ、ナント歌劇場、ポワティエ劇場、ヨーロッパではロンドンのウィグモアホール、ウィーンのコンツェルトハウス、アムステルダム・コンセルトヘボウをはじめとした多くの著名コンサートホールから何度も招かれている。日本、アメリカ、南米、オーストラリア等へも演奏ツアーを重ねている。シューベルト、ベートーヴェン、モーツァルト、ブラームス、バルトーク、ヤナーチェク、シュルホフを録音したCDは、ストラッド、テレマ、南ドイツ新聞、ディアパソン、ガーディアンのような主要プレスで高い評価を獲得。最新アルバムは、"Poétiques de l'instant"と題し、ドビュッシーとラヴェルを中心に、イヴ・バルメールとブルーノ・マントヴァーニの新作が収録された2巻を2022年にリリース、ディアパソン誌で金賞を受賞している。

イザイ・クアルテット、ギュンター・ピヒラー、エバーハルト・ヘルツに師事。次なる若い世代に、彼らの経験と情熱を伝えていきたいと、2010年からは Pro Quartet の活動の一環としてパリのいくつかの音楽院で指導を始める。2017年には、ヴァンドーム市とモンソー保険会社の援助を得て、音楽祭とアカデミー "Quatuor à Vendôme" を設立。さらに、アルデシュで、2つ目のアカデミーと音楽祭 "Rendez-vous des Princes" を設立。2021年にはジュネーヴ高等音楽院のレジデンス・クアルテットに任命された。

日本デビューの2008年以後、2010年、2014年、2018年と来日を重ね、2021年は新型コロナウイルスのパンデミックにより来日中止となっており、本年6年ぶり5度目の来日となる。



※ヴァイオリンのサラ・ダイヤンが、体調不良のため医師の判断により、今回の日本ツアーへの参加を断念することとなりました。サラ・ダイヤンに代わりまして、本日の公演を含む今回の日本ツアーではコンスタンス・ロンザッティが演奏いたします。

コンスタンス・ロンザッティ (ヴァイオリン) Constance Ronzatti, violin

# QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2024

## タレイア・クアルテット

2014年東京藝術大学在学時に結成。2015年ザルツブルク・モーツァルト国際室内楽コンクールで第3位、翌16年宗次ホール弦楽四重奏コンクールで第2位(2016)を受賞した。2016年イギリスにて開催されたLake District Summer Musicでイギリス・デビュー、湖水地方各地にてリサイタルを開催し好評を博した。2017年には、イギリスのChillingirian Quartet Summer Courseに参加した。宗次ホールにて百武由紀、藝大130周年事業「藝大茶会」にて澤和樹、とやま室内楽フェスティバルにて堤剛、第一生命ホールにてクアルテット・エクセルシオとそれぞれ共演した。日本演奏連盟主催「新進演奏育成プロジェクト リサイタル・シリーズ」オーデイションに合格し、東京文化会館小ホールにてリサイタルを開催、2018年には宗次ホール弦楽四重奏コンクールでクアルテット・アマービレと共に第1位となった。公益財団法人松尾尾学術振興財団より第28、29、31回助成を受けた。

サントリーホール室内楽アカデミー第5期フェローメンバー。プロジェクト0(第15、16、17章)に参加、NHK音楽番組「ららクラシック」クラシックTV」に出演した。山崎伸子、磯村和英に師事した。現在、山田香子、二村裕美、渡部映耶、石崎美雨の4人で活動しており、昨年の大阪国際室内楽コンクールではセミファイナルに進出し、ボルドー弦楽四重奏フェスティバル賞を受賞した。

Salvia-hall  
Quartet  
Series  
Season 57

# 177



THALEIA Quartet

# Salvia-hall Quartet Series #177

## QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2024

メンデルスゾーン：弦楽四重奏のための4つの小品 作品80  
Felix MENDELSSOHN-Bartholdy: 4 movements for String Quartet Op.81  
(1809-1847)  
Andante  
Scherzo  
Capriccio  
Fuga

フアンニー・メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 変ホ長調  
Fanny MENDELSSOHN-HENSEL: String Quartet in E flat major  
(1805-1847)  
Adagio ma non troppo  
Scherzo; Allegretto  
Romnze  
Allegro molto vivace

メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 第6番 へ短調 作品80  
Felix MENDELSSOHN: String Quartet No.6 in F minor Op.80  
Allegro vivace assai  
Allegro assai  
Adagio  
Finale; Allegro molto

### タレイア・クアルテット THALEIA QUARTET

ヴァイオリン：山田 香子 二村 裕美  
violin: YAMADA Kako FUTAMURA Hiromi  
ヴィオラ：渡部 咲耶 チェロ：石崎 美雨  
viola: WATABE Sakuya violoncello: ISHIZAKI Miu

2024年6月24日(月) 19時開演 / サルビアホール3F 音楽ホール  
Monday, 24 June 2024 7:00P.M.  
at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催：横浜楽友会  
共催：横浜市鶴見区民文化センター・サルビアホール  
指定管理者：神奈川共立・ハリマビスタム共同事業体  
協力：日本音楽財団(日本財団助成事業)  
助成：公益財団法人日本室内楽振興財団

## Program Note

### ● メンデルスゾーン：弦楽四重奏のための4つの小品 作品81

この時期のフェリックス・メンデルスゾーンと姉フアンニーについては後述するが、この作品81の「4つの小品」は、出版が第6番の弦楽四重奏曲の後であったこともあって、時に「弦楽四重奏曲第7番」と呼ばれることもある晩年の作品だが、第6番の前後に書かれた小品を集めたものである。別々に書かれた①主題と変奏、②スケルツォ、③カプリッチョ、④フーガの4曲がまとめられたものである。。。

### ● フアンニー・メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 変ホ長調

フアンニーは、フェリックスの3つ違いの姉、幼少期からフェリックス同様の音楽教育を受け、幼少期からその才能を発揮したが、当時の偏見から音楽家として独立することは父ばかりか弟にも反対され、宮廷画家のヴァルヘルム・ヘンゼルと結婚した。結婚後も弟の作品に対して積極的にアドヴァイスを与えたほか、彼女なりに作曲も続け、ゲーテの詩に作曲した歌曲はゲーテ自身からも高い評価を得た。この弦楽四重奏曲は、フアンニー29歳の1834年の8月から9月にかけての作曲、いきなり緩徐楽章というきわめて独創的な構成である。

### ● メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 第6番 へ短調 作品80

1847年9月、死の2か月前に完成したメンデルスゾーン最後の弦楽四重奏曲である。この年の5月、作曲家としても著名な最愛の姉フアンニーが他界し、メンデルスゾーンは大きなショックを受けたが、その悲しみがこの曲にも反映している。メンデルスゾーンは作品の多くが明るく深刻としているが、この曲はその例外的雰囲気込まれている。そして、メンデルスゾーン自身姉の後を追うように他界こととなる。曲は、他の5曲の弦楽四重奏曲同様の4楽章構成で、第2楽章にはスケルツォが採用されている。





# QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2024

## バルチャ・クアルテット

Salvia-hall  
Quartet  
Series  
Season 57

# 178

バルチャ・クアルテットの音楽は、情熱と精度、純粋で豊かな表現力によって特徴付けられている。ルーマニアのコリナーナ・バルチャ（ヴァイオリン）、韓国系オーストラリア人のカン・スヨン（ヴァイオリン）、ポーランドのクシシチュトフ・ホジェルスキ（ヴィオラ）、フランスのアントワース・レダラン（チェロ）の4人で構成され、それぞれの持つ異なるバックグラウンドが一体となり、独自の音楽性を築いている。

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、バルトーク、ヤナーチク、シマノフスキといった多様なレパートリーを持ち、一方で数多くの現代作品の初演を行い、ギヨーム・コネッソン(2023)、ジョゼフ・フィブス(2018)、クシシチュトフ・ペンデレツキ(2016)、トーマス・ラルヒヤール(2015)、マーク・アノン・ニノー・タネジ(2014・2010)等の作品を演奏している。

今シーズンはジュリアン・アングァーソンの初演が予定されている。これらの新曲は自身が創設した「バルチャ・クアルテット信託」との共同委嘱であり、弦楽四重奏のレパートリーを継続的に拡充するとともに、若手演奏家を指導しサポートすることで、アマテウス・クアルテットとアルバン・バルック・クアルテットから受け継いだ伝統を次世代へと繋いでいくことを目標としている。

バルトーク、ベートーヴェン、ブラームス(2016)ディイバソン・トール賞受賞)、ブリテンの全曲録音に加え、バルク、デュティユ、モーツァルト、シェーンベルク、シュターベルト、ショスタコヴィチ、ヤナーチク、リグザイ等の録音をリリースした。2022年春、アルファ・クラシックから「タバ・ヴィン・マン・マ・レ・シヤン・キアン・ケラス」との共演で『ブラームス・弦楽六重奏曲 第1番&第2番』をリリースした。

2012年にヴィーン・コンツェルトハウスで開催した、「ベートーヴェン：弦楽四重奏曲全曲演奏会」は、フランスのMezzo TVで放送され、2014年にはヨーロッパ・レベールよりドキュメンタリー『ベートーヴェン弦楽四重奏曲への道筋(Looking for Beethoven)』がDVD、Blu-rayとしてリリースされた。また日本においてもクラシカ・ジャパンで完全放送された。2015年には同レーベルからDVD『ブリテン：弦楽四重奏曲全集』をリリースした。

2017・20年にピエール・ブレーズ・ザールのアーティスト・イン・レジデンスを始め、現在も定期的に演奏している。2010年よりヴィーン・コンツェルトハウスのレジデンス・アンサンブルの1つとして活動し、昨シーズンよりエベニス四重奏団がパートナー・アンサンブルとして加わった。

2023/24シーズンは、パリ、リスボン、アムステルダム、横浜で開催されるクアルテット・ビエンナーレに出演するほか、カーネギーホール、ハンプトン・エルブ・フィルハーモニー、プリエツセルのプラジエ、ダブリン国立コンサートホール、チューリッヒ・トーンハレ、東京のトツパンホールなど、数々の著名ホールに登場する。



BELCEA Quartet

# Salvia-hall Quartet Series #178

## QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2024

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第4番ハ短調 作品18-4  
Ludwig van BEETHOVEN: String Quartet No.4 in C minor Op.18-4  
(1770-1827)

Allegro ma non tanto  
Scherzo; Andante scherzoso quasi allegretto  
Menuetto; Allegretto  
Allegro

ブリテン：弦楽四重奏曲 第3番 作品94

Benjamin BRITTEN: String Quartet No.3 Op.94  
(1913-1976)  
Duets (With moderato movement)  
Ostinato (Very fast)  
Solo (Very calm)  
Burlesque (Fast, con fuco)  
Recitative and Passacaglia (La Serenissima) (Slow)

ベートーヴェン 弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 作品127

Ludwig van BEETHOVEN: String Quartet No.12 in E flat major Op.127  
(1770-1827)  
Maestoso; Allegro  
Adagio ma non troppo e molto cantabile  
Scherzando vivace; Presto  
Finale; Allegro con moto

### ベルチャ・クアルテット BELCEA QUARTET

ヴァイオリン：コリーナ・ベルチャ カン・スヨン  
violin: Corina BELCEA KANG Suyeoni

ヴィオラ：クジシュトフ・ホジェルスキ チェロ：アントワーンヌ・レデルラン  
viola: Krzysztof CHORZEJSKI violoncello: Antoine LEDERLIN

2024年6月27日(木) 19時開演 / サルビアホール3 F音楽ホール  
Thursday, 27 June 2024 7:00P.M.  
at Salvia-hall 3F Concert Hall

主催：横浜楽友会  
共催：横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール  
指定管理者：神奈川扶立・ハリマビステム共同事業体  
協力：日本音楽財団 (日本財団助成事業)  
助成：公益財団法人 日本室内楽振興財団

## Program Note

### ● ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第4番ハ短調 作品18-4

若きベートーヴェンは、ハイドゥンやモーツァルト時代の慣行を受けて、6曲の弦楽四重奏曲を作曲し、3曲ずつまとめて出版している。その6曲の中で、この第4番は一般には最後に書かれた曲と考えられており、6曲の中では唯一の短調、それもベートーヴェンにとって特別な意味をもつハ短調！ベートーヴェンは作品18の総仕上げの意図をもって作曲したといえよう。この曲は、スケルツォとメヌエットという2つの舞曲を含んでいる点で少々特異な構成となっているが、第2楽章のスケルツォはかなり遅めのテンポ設定で、通常の緩徐楽章の性格を兼ねた楽章と考えられる。

### ● ブリテン：弦楽四重奏曲 第3番 作品94

20世紀イギリスを代表する作曲家ブリテンが最後に作曲した代表的作品、死の前年(1975)の10月から11月に闘病生活の中で、アマデウス・クアルテットの協力を得て作曲された。曲は、5楽章構成、すべての楽章がA-B-Aの3部形式で書かれ、叙情的な第3楽章を軸としたア一手状の構成で、第2、4楽章はスケルツォ、第1、5楽章は緩徐楽章となっている。終楽章の「レチタティーヴォ」は、この曲の直前に書かれたオペラ「ベニスに死す」から引用され、「ハッサカリア」もこのオペラのモチーフに基づいている。

### ● ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 作品127

前作第11番「セリオーン」からは実に14年を経て書かれた作品。ベートーヴェン53歳の1823年の作曲。第9交響曲やミサ・ソレムニスを書き上げた後、ガリツィン公爵からの依頼を受けて再び弦楽四重奏曲の作曲に向かう。当時の慣習通り3曲セットでの注文であったよう、この第12番を皮切りに、第15番(Op.132)、第13番(Op.130)と書き進められ、この3曲は一般に「ガリツィン・セット」とよばれている。この後、弦楽四重奏曲の構成は1楽章ずつ増え大規模化し、独自のスタイルになっていくが、この第12番は4楽章構成で、古典派のスタイルを忠実に踏襲している。ただし、第2楽章は変奏曲形式で、ベートーヴェン後期の精神的深さを示している。

